

中国の落葉果実事情(リンゴ、ナシ、ブドウ)

米国農務省GAINレポート 2024年11月6日

これは米国農務省海外農業局北京事務所(中国)が作成した「落葉果実年次報告書」の一部を翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

<リンゴ>

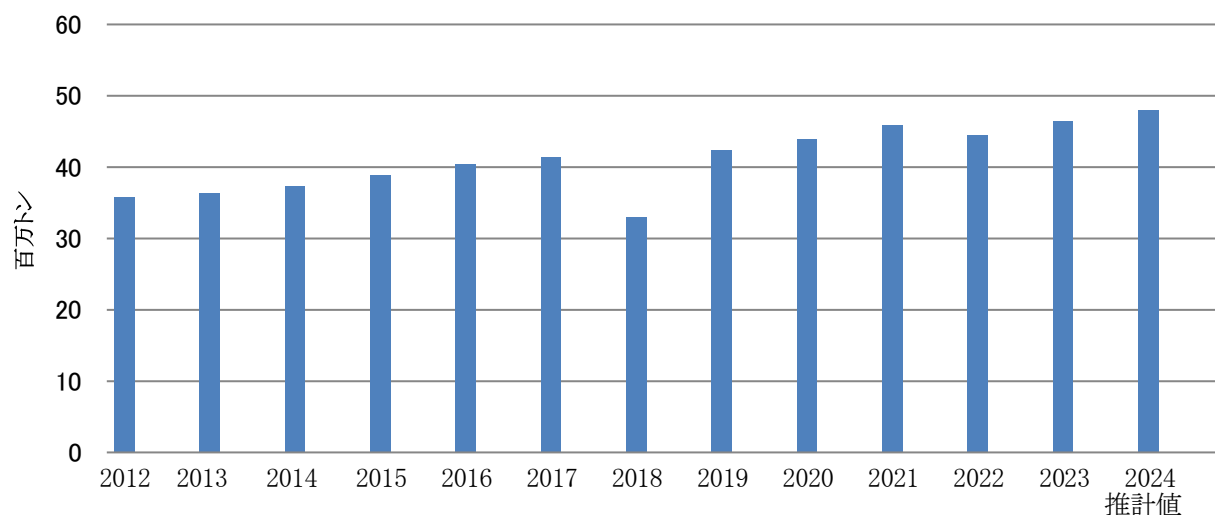
表1 中国の生鮮リンゴの生産需給統計

リンゴ(生鮮)	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
販売年度の始まり	2022年7月		2023年7月		2024年7月	
中国	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	1,955,800	1,955,800	1,935,000	1,928,460	0	1,910,000
収穫面積(ヘクタール)	0	0	0	0	0	0
結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
未結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計(千本)	0	0	0	0	0	0
商業的生産量(トン)	44,500,000	44,500,000	45,000,000	46,500,000	0	48,000,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	44,500,000	44,500,000	45,000,000	46,500,000	0	48,000,000
輸入量(トン)	95,300	95,300	85,000	87,800	0	105,000
総供給量(トン)	44,595,300	44,595,300	45,085,000	46,587,800	0	48,105,000
国内消費量(トン)	43,820,900	43,820,300	44,215,000	45,676,800	0	47,005,000
輸出量(トン)	774,400	775,000	870,000	911,000	0	1,100,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	44,595,300	44,595,300	45,085,000	46,587,800	0	48,105,000

生産

当事務所は、中国の2024/25販売年度(年度、7月～翌年6月)のリンゴ生産量を、2023/24年度の当事務所の改訂推計値から3%強の増加となる4,800万トンと推定する。開花期の降雨と一部の産地での夏の気温上昇を除けば、2024年はこれまでのところ大きな異常気象はなく、これがリンゴの生産量増加の主な要因である。好天のほか、多収性品種や園芸技術による生産性の向上に収量の低い古い果樹の伐採が加わり、栽培面積の緩やかな減少を埋め合わせる以上のものとなった。

図1 中国のリンゴ生産量



出典: 国家統計局(NBS)、当事務所

3番目に大きな産地である甘粛省のリンゴの収穫量は、春の霜が着果に深刻な影響を与えた2023/24年度の減収から回復した。当事務所は、第1位と第4位のリンゴ産地である陝西省と山西省での現地調査において、これら2つの省が裏年に当たるため、今年はリンゴの収穫量が少なくなる可能性が高いことを観察した。さらに、結果樹が少なく、これもこれらの州の生産量に影響を与える。山東省と遼寧省は、第2位と第6位のリンゴ産地であり、リンゴ生産量の緩やかな増加が見込まれる。河北省、四川省等、他の主要な産地のリンゴの収穫量は、わずかに改善する可能性がある。一方、リンゴの品質は、ほとんどの産地での良好な生育条件により、全般的に前年よりも改善している。取引業者らは、等級の高いリンゴのシェアが前年に比べて大幅に増加すると報告している。当事務所は、業界の予想に沿って生産量予測を上方修正した。当事務所は、この国のリンゴ生産量は今後も比較的安定するものと予想する。

当事務所は、2024/25年度のリンゴの栽培面積はさらにやや減少すると推定する。国務院が、基本的な農地での果実の生産を禁止する「農地の『非穀物』への転換防止と穀物生産の安定化に関する見解」を発表したのを受けて、この国のリンゴ栽培面積は2020年に減少し始めた。基本的な農地にある果樹園は穀物農場や油糧種子等の他の戦略的商品作物の生産に転換する必要がある。地方政府は、特に平野部の果樹生産者に対して、補助金等で穀物生産への切り替えを支援している。例えば、陝西省の一部の県政府は、果樹園を穀物農場に転換するために、果樹生産者に対して1ヘクタール当たり7,500人民元(1,056ドル)の補助金を提供した。それに加えて、リンゴ栽培は収益性が低くなっている。一部の生産者は、低品質で効率の悪い果樹園をより収益性の高い作物に切り替えている。他のケースでは、単に高齢であるという理由で、トウモロコシ等労働集約度の低い作物の栽培を選択した生産者もいる。リンゴを生産する上位7省すべてで、リンゴの栽培面積は減少しているか、横ばいである。栽培面積の拡大が進んでいるのは、特産リンゴの開発が進んでいる雲南省と四川省だけである。

地図1 中国のリンゴ産地



茶色 = 中国の生産量の20%以上(陝西省、山東省)
 灰色 = 5%～10%(甘粛省、山西省、河南省、遼寧省、河北省)
 出典：中国統計年鑑(2023年データ)

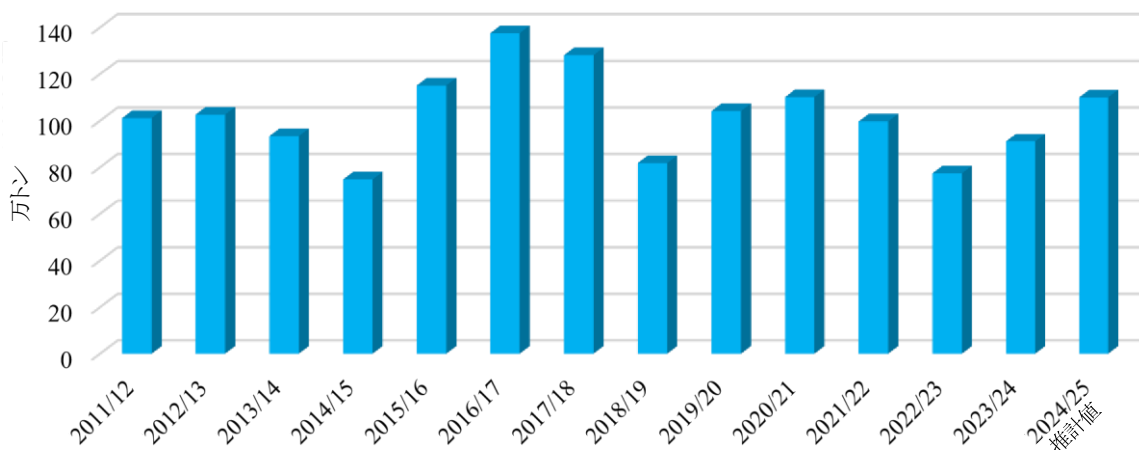
中国の研究者は、色や成熟期の異なる新しいリンゴ品種を積極的に開発している。これまでに、多くの新品種が主要な産地に導入されて植えられた。例えば、雲南省では「紅琇之吻」という実が締まりサクサク感のある品種が植えられており、香り、食味、糖度に優れていることで知られている。しかし、魯麗、維納斯黄金、秦脆、瑞雪、瑞陽、瑞香紅等の新品種の栽培面積と生産量は依然として低迷している。生産者は、果樹園の改植による経済的損失を最小限に抑えるため、リンゴの木をこれらの新しいリンゴ品種に段階的に転換し、消費者がどのように反応するかを見守っている。しかし、果樹園や品種をアップグレードするには莫大な投資と技術が必要であり、大部分の小規模生産者にはその余裕がない。10月下旬に収穫される晩生のふじ品種は、依然として中国のリンゴ生産の大半、すなわち中国で生産されるリンゴ全体の70%以上を占めている。残りの30%のうち大部分は、7月から9月の間に収穫されるガラ等の早生及び中期の品種である。

主要なリンゴ産地の省や県では、地方政府が研修セミナーを開催したり、実証ほを設置したりして、近代的な生産技術の普及を推進している。例えば、矮化密植栽培の方式を採用することで土地利用効率と収量を大幅に改善できる。同時に、この技術は作業の機械化を容易にし、人件費を削減する。水と肥料を同時に施用できる点滴灌漑システムも、効率を大幅に向上させ無駄を削減した。また、このほかの技術的進歩としては、病害虫を防除する生物学的防除技術や、果樹園の環境をリアルタイムで監視・制御するための情報技術やビッグデータの利用等がある。地方政府は、生産者が果樹園のインフラ整備をはじめとする最新の技術を採用するための補助金を提供してきたが、このタイプの支援は一定の規模要件を満たす大規模な農場を対象としている。中国の果樹栽培やその他の農業生産が直面している最大の課題は依然として労働力であるが、高齢化と賃金の上昇が徐々に進行しており、発展の度合いが進んだ地域では労働力が不足している。山東大学が晩生で袋掛けの要らないリンゴ品種の開発に成功したことは注目に値する。果実の肥大の初期段階での袋掛けは病害虫の影響を減らし、見た目の美しい果実が得られるため、中国では依然として一般的だが、労働集約的な農法である。労働力不足は、この農法をさらにコストのかかるものになっている。

輸出

当事務所は、中国のリンゴ輸出は、国内供給の増加と価格の低下により、2024/25年度も引き続き増加すると予測する。東南アジア市場までは輸送コストが低く、中国とASEANの自由貿易協定(FTA)の下で関税がゼロであるため、中国産生鮮リンゴは優位性がある。以前は、中国産の果実は主に国内市場で売られていたが、ベトナム等一部の東南アジア諸国では中国産の果実が主要なスーパーマーケットに入荷していると地元メディアが報じている。中央アジアとロシアへの生鮮リンゴの輸出も急速に増加している。中国産青果物の輸出は、政府がCOVID-19に関連する物流制限を解除した後の2023/24年度に本格的に始まった。

図4 中国の年度別リンゴ輸出量(7月～6月)



出典: Trade Data Monitor, LLC、当事務所

<ナシ>

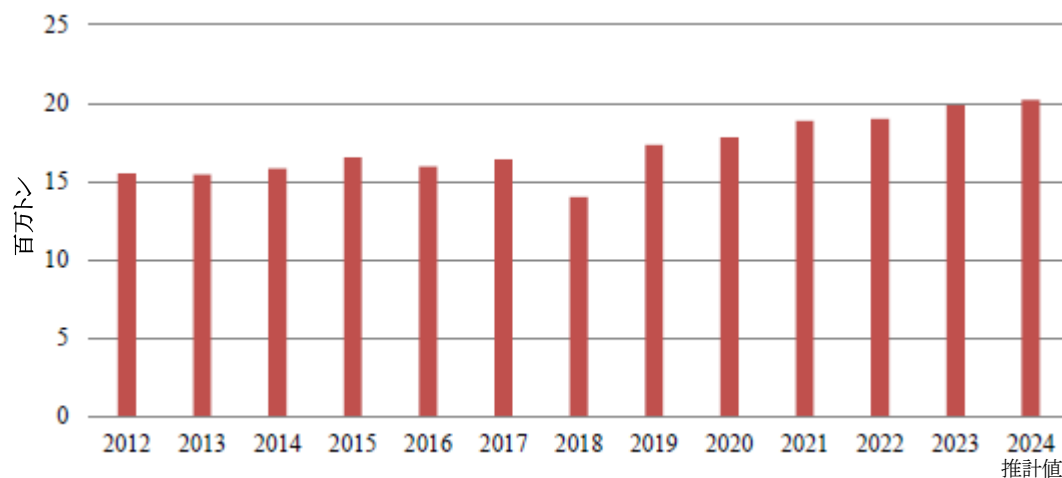
表2 中国のナシの生産需給統計

ナシ(生鮮)	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
販売年度の始まり	2022年7月		2023年7月		2024年7月	
中国	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	913,000	913,000	904,000	904,000	0	900,000
収穫面積(ヘクタール)	0	0	0	0	0	0
結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
未結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計(千本)	0	0	0	0	0	0
商業的生産量(トン)	19,000,000	19,260,000	19,600,000	19,850,000	0	20,200,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	19,000,000	19,260,000	19,600,000	19,850,000	0	20,200,000
輸入量(トン)	16,500	16,500	15,000	11,500	0	12,000
総供給量(トン)	19,016,500	19,276,500	19,615,000	19,861,500	0	20,212,000
国内消費量(トン)	18,606,900	18,866,900	19,050,000	19,256,500	0	19,552,000
輸出量(トン)	409,600	409,600	565,000	605,000	0	660,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	19,016,500	19,276,500	19,615,000	19,861,500	0	20,212,000

生産

当事務所は、2024/25年度(7月～6月)の中国のナシ生産量を2,020万トンと推定する。これは2023/24年度の改訂推計値から約2%の増加となる。今年の夏の乾燥した天候により、陝西省と山西省ではナシの供給量がわずかに減少する可能性がある。最大の産地である河北省を含む他の主要なナシ生産省では、今年の豊作を見込んでいる。良好な生育条件により、果実の品質は全般的に前年よりも改善する。しかし、貿易関係者らは、7月と8月の過度の降雨が山東省のナシの風味を低下させたと推測している。公式統計を反映し、2022/23年度と2023/24年度のナシの生産量を上方修正した。

図5 中国のナシ生産量

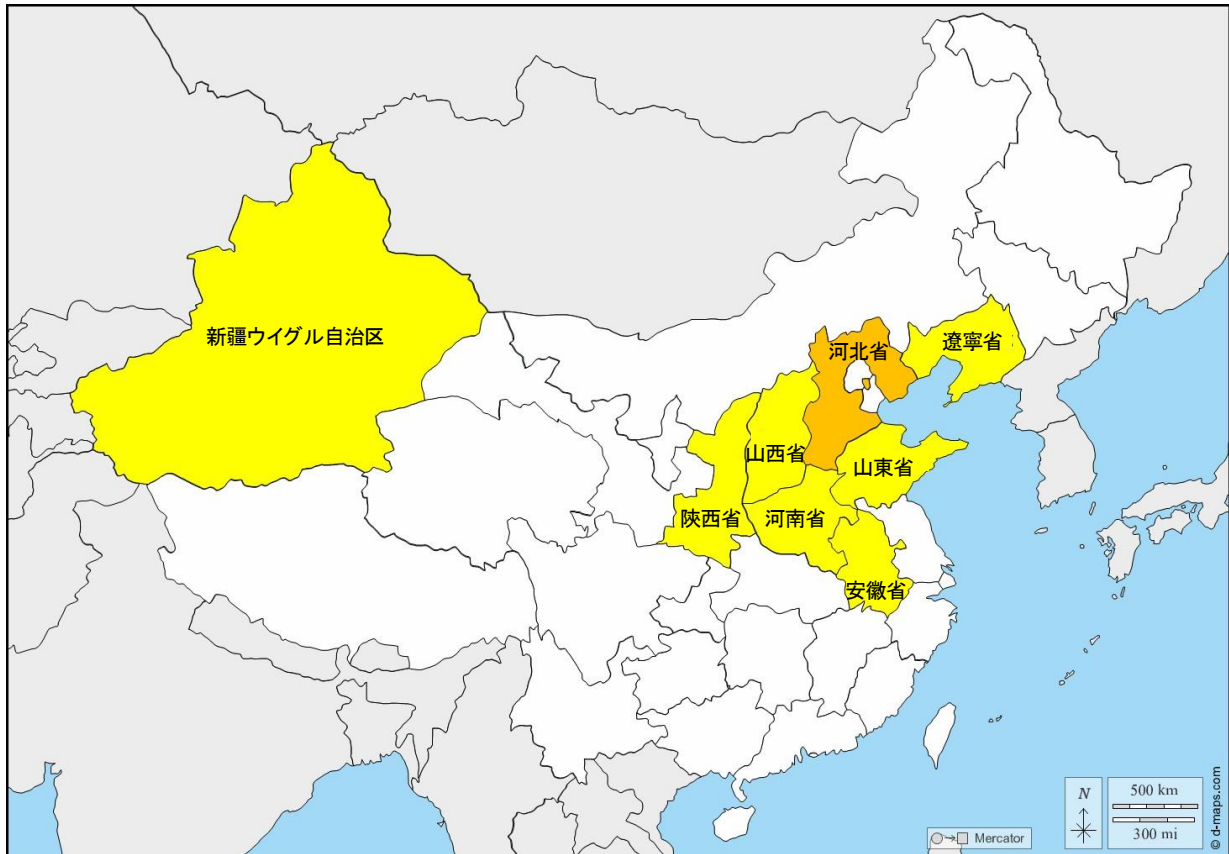


出典：国家統計局(NBS)、当事務所

当事務所は、中国が2020年に農地利用の規制を開始したことを受けて、2024/25年度のナシの栽培面積がさらに減少すると予想する(上述のリンゴ生産の項を参照)。さらに、陝西省では2023年の過度の降雨により発生した病害に起因する経済的損失のため、多くの生産者がナシの木を除去した。他の一部の生産者は、果実栽培を行うには高齢であるため、ナシ園をトウモロコシ農場に転換した。ナシは中国で広く栽培されているが、主に8つの省に集中しており、その生産量は国全体の70%近くを占めている(地図2)。

ナシの品質は、主に農業技術の向上により近年著しく向上している。山東省の果樹生産者によると、果実の風味を高めるため、有機肥料の施用や雑草マルチ技術の適用等の土壌改良対策を採用する果樹園が増えている。さらに、研究者らは、消費者の好みに対応するために、秋月、翠冠梨等の新しい品種を開発または導入した。伝統的な鴨梨と雪梨は徐々に需要が衰退している。しかし、中国の生産者は、必要な農業技術を習得せずに、トレンドを追いかけて、市場で好まれる品種を植える傾向がある。たとえば、数年前に秋月が高値で販売されたとき、多くの小規模果実生産者がナシを秋月に置き換えた。その結果、秋月の生産は急速に拡大したが、果実の品質は低下した。中国の生産者は、主にアジア系のナシ品種(果汁が多く果肉が硬い)を植えており、洋ナシ品種(食感が柔らかい)は少ない。

地図2 中国のナシ産地



オレンジ色 = 中国の生産量の10%~20%(河北省)

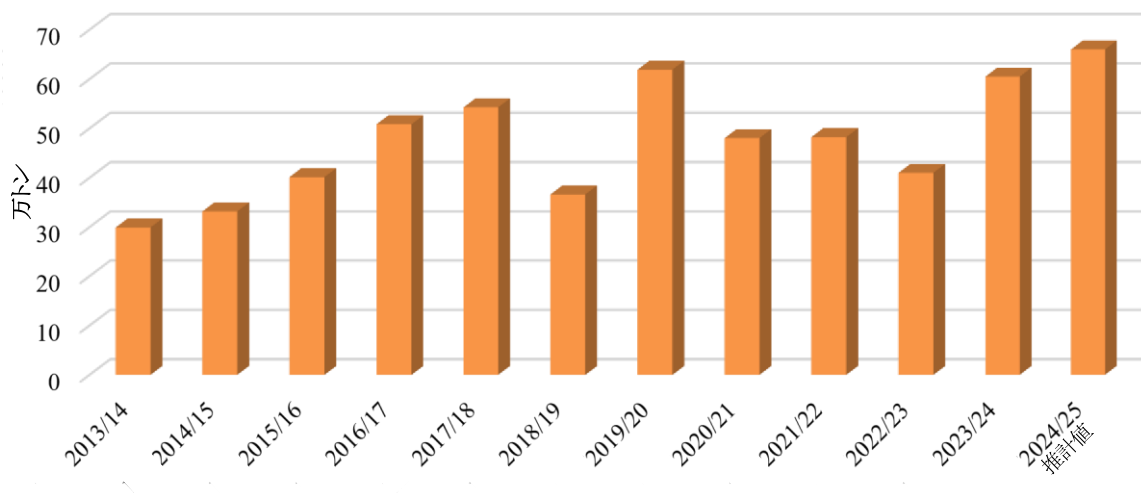
黄色 = 5%~10%(新疆ウイグル自治区、山西省、河南省、安徽省、山東省、遼寧省、陝西省)

出典：中国統計年鑑(2023年データ)

輸出

当事務所は、中国の2024/25年度(7月~6月)のナシの輸出は、国内供給量の増加と価格の低下により、改善すると予想する。物流と包装の改善を活用して、中国は近隣市場、主にASEAN諸国、キルギス、ロシアへのナシの輸出を着実に増加させている。

図8 中国の年度別ナン輸出量(7月～6月)



出典: Trade Data Monitor, LLC、当事務所

<ブドウ>

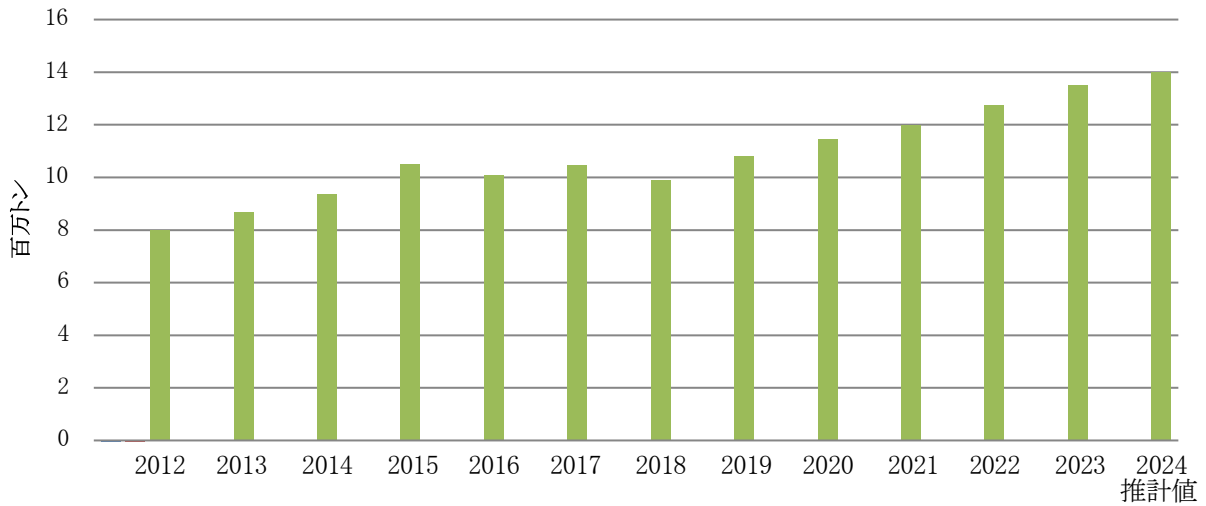
表3 中国の生食用ブドウの生産需給統計

ブドウ(生食用、生鮮)	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	販売年度の始まり		販売年度の始まり		販売年度の始まり	
	2022年6月		2023年6月		2024年6月	
中国	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	730,000	730,000	728,000	728,000	0	725,000
収穫面積(ヘクタール)	0	0	0	0	0	0
商業的生産量(トン)	12,750,000	12,750,000	13,500,000	13,500,000	0	14,200,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	12,750,000	12,750,000	13,500,000	13,500,000	0	14,200,000
輸入量(トン)	175,700	175,700	135,000	118,500	0	85,000
総供給量(トン)	12,925,700	12,925,700	13,635,000	13,618,500	0	14,285,000
国内消費量(トン)	12,536,800	12,536,800	13,145,000	13,119,900	0	13,665,000
輸出量(トン)	388,900	388,900	490,000	498,600	0	620,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	12,925,700	12,925,700	13,635,000	13,618,500	0	14,285,000

生産

当事務所は、中国の2024/25年度(6月～5月)の生食用ブドウの生産量を、前年比5%増の1,420万トンと推定する。今年は、主要なブドウ産地で果実の生育期間中に目立った異常気象は報告されていない。ブドウの品質は概ね良好であるが、河南省と安徽省の果実生産者らによると、この地域では夏の雨が続いたため風味に影響が出ている。当事務所は、中国の生食用ブドウの生産量は近い将来、着実に増加すると予想する。栽培面積の減少にもかかわらず、収量の改善に役立つ農業技術の向上に牽引され、生食用ブドウの生産量は引き続き増加すると予想される。ブドウは、農業界以外から多くの投資を受けてきた。裕福な投資家らは、数年以内に大きな収益を生み出す可能性に惹かれて、ブドウの比較的短い収穫サイクルに引き付けられている。これにより、生産が増加する一方で、価格に下押し圧力がかかっている。

図8 中国の生食用ブドウ生産量



出典: Trade Data Monitor, LLC、当事務所

当事務所は、中国の2024/25年度のブドウ栽培面積はわずかに減少すると推定する。山東省、河北省、遼寧省等の伝統的なブドウ生産省の一部の生産者は、生産コスト、特に人件費が高いため、ブドウの栽培面積を減らしている。陝西省の生産者らによると、ブドウ栽培、特に新品種の栽培には高度な技術とより多くの投資が必要なため、ブドウの生産コストは一般的にリンゴやナシよりも高い。

地図3 中国のブドウ産地



紫 = 中国の生産量の20%以上(新疆ウイグル自治区)
 グレー = 5%~10%(河北省、山東省、雲南省、陝西省、河南省、遼寧省)
 出典: 中国統計年鑑(2023年データ)

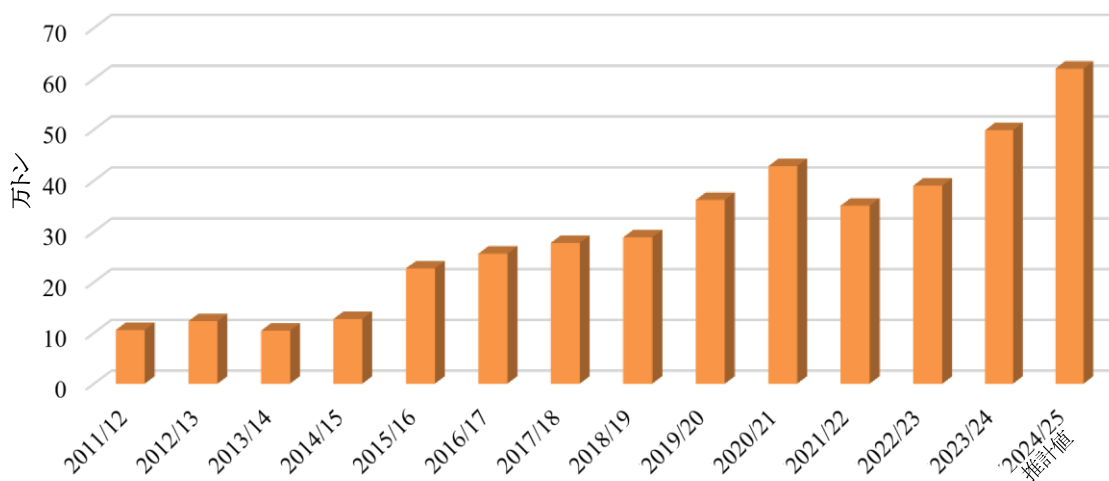
例えば、サンシャインマスカット(原文のまま)の生産者は、望ましいサイズと形状の果粒を得るために、生育の初期の段階で果房を調整する技術者を雲南省から雇う必要がある。また、ほとんどのブドウ産地では、病害虫の発生を防ぐために、生産者はブドウ園を覆う雨よけを作る必要がある。最も重要なことは、ブドウの風味を改善したい場合、生産者は有機肥料を使用する必要があるということである。さらに、品質の確保や出荷シーズンの延長のために、温室で栽培されるブドウが増加している。報告によると、生食用ブドウの栽培面積の33%、生産量の28%は温室で栽培されている。

新しいブドウ品種は主に種無し品種であり、消費者の好みに応じて最近導入または開発されたものである。例えば、サンシャインマスカットは、レッドグローブ、巨峰等の伝統的なブドウ品種の市場シェアを急速に奪った。新品種のニーナクイーンも登場し、ブドウ生産者の間で支持を得ている。ニーナクイーンは、鮮やかな色の赤ブドウ品種で、繊細で柔らかい果肉と豊かな花の香りが特徴であり、熟期は中生から晩生である。この品種は食味と風味で伝統的なブドウ品種を凌駕し、市場で非常に人気のあるブドウ品種となった。しかし、山東省のブドウ生産者らによると、ニーナクイーンの栽培に必要な農業技術は従来のブドウよりもはるかにレベルが高く、苗木は簡単に入手できない。ぶどうの生産は中国全土に広がっているが、そのほとんどが7つの省に集中している(地図3)。生食用ブドウは5月から10月の間に収穫されるが、貯蔵技術の改善と施設栽培により、供給シーズンは長くなっている。

輸出

当事務所は、中国の2024/25年度のブドウ輸出量は、国内産ブドウの価格低下により大幅に増加すると推定する。輸送時間の短縮と大幅な品質向上を活かして、中国の業者は東南アジアの主要市場、特に隣接するタイとベトナムへの生鮮ブドウの出荷を増やしてきた。また、中国から中央アジア(キルギス)やロシアへのブドウ輸出が急速に増加している。

図10 中国の年度別生食用ブドウ輸出量(6月～5月)



出典: Trade Data Monitor, LLC、当事務所